

Reconstructive Surgery

News Letter



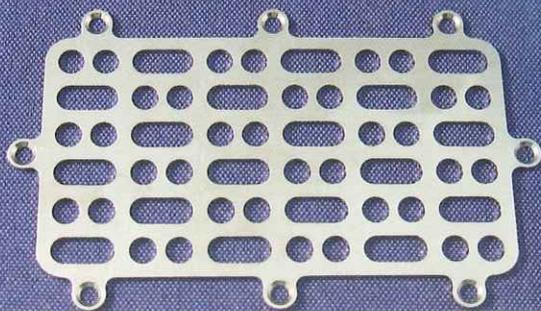
脳神経外科における整容を目的とした Sub-Temporal plate の応用

微小血管減圧術におけるニューロ側頭下メッシュプレートを用いた頭蓋形成の有用性

脳神経外科において最近注目されている、患者様の術後QOL向上を目指した、整容目的でのプレATINGシステムの活用について、バイオメットマイクロフィクセーション社製ニューロシステムを採用し効果をあげている、岡山赤十字病院 第一脳神経外科部長 小野田 恵介 先生・副部長 神原 啓和 先生にお話を伺いました。



整容的な面にも徹しく取り組みます



岡山赤十字病院

●第一脳神経外科



部長
小野田 恵介 先生



副部長
神原 啓和 先生



〒700-8607 岡山市北区青江2丁目1番1号
TEL:086-222-8811 FAX:086-222-8841
www.okayama-med.jrc.or.jp/



Q1 先生がこのプレートシステムを整容目的で採用されている術式はどのようなものですか？

A1

微小血管減圧術に対してこのプレートシステムを使用しています。この手術は三叉神経痛、片側顔面痙攣症例に対するもので、3×3cm程度の小開頭にて行ういわゆるkeyhole surgeryです。小開頭であるがゆえ従来、頭蓋形成を行わないことも多く、長期的観察において陥凹し、整容的問題が生じることもありました。本手術件数は最近、当科において多く、他県からも多く紹介いただいています。



陥凹部：微小血管減圧術後、後頭部に陥凹が目立つ場合があります。

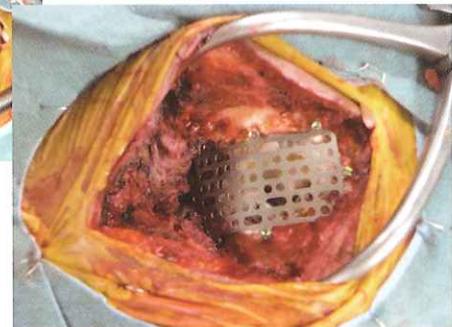
Q2 具体的にはどのような方法で使用されていますか？

A2

私たちはニューロ側頭下メッシュプレート(31mm×51mm、品番:01-7363)を前頭側頭開頭において側頭部の陥凹を予防する目的で使用していました。このメッシュプレートは形の形成が容易で頭蓋骨のカーブに合わせて用いることが可能で、さらに大きさも開頭部に最適と考えられたので、微小血管減圧術の頭蓋形成における応用を試み、このメッシュプレートを全長3.5mmのスクリュー数本にて固定しています。



メッシュプレート装着前

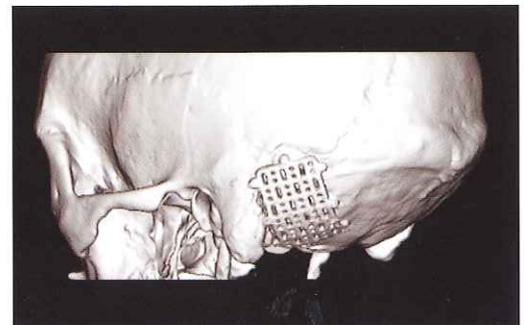


メッシュプレート装着後

Q3 その有用性について教えてください。

A3

このメッシュプレートは後頭蓋下開頭部の形状に容易に合わせることができ、非常に強固な固定を得ることができました。術後のフォローアップでは後耳介部に陥凹を認めず、患者さんよりの満足度も含め、整容的有用性を確認することができました。またメッシュプレートと硬膜間の死腔の存在により感染等も危惧されましたが、現時点(61症例)では明らかな合併症の出現はありません。今後も患者様の術後QOL向上を目指し、引き続きこのプレッシングシステムの活用と、継続したフォローアップを行っていきたいと思います。



50代男性 右顔面けいれんに対する微小血管減圧術



株式会社 **メディカル ユーアンドエイ**

本社
〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目4-27 新藤田ビル5F
TEL(06)4796-3151 FAX(06)4796-3150
URL:www.mua.co.jp E-mail:info@mua.co.jp

札幌営業所/TEL(011)633-6137 FAX(011)613-6127
仙台営業所/TEL(022)727-5574 FAX(022)274-2126
東京営業所/TEL(03)3518-0211 FAX(03)3518-0220
名古屋営業所/TEL(052)760-2161 FAX(052)775-7202
岡山営業所/TEL(086)212-0556 FAX(086)227-3060
福岡営業所/TEL(092)415-4861 FAX(092)415-4870

Reconstructive Surgery

News Letter



脳神経外科における整容を目的とした生体吸収性プレートの使用経験

成人頭蓋形成における生体吸収性プレート (LactoSorb®)の有用性

脳神経外科において最近注目されている、患者様の術後QOL向上を目指した、整容目的でのプレATINGシステムの活用について、バイオメットマイクロフィクセーション社製生体吸収性プレートを採用し効果をあげている、岡山赤十字病院 第一脳神経外科部長 小野田 恵介 先生・副部長 神原 啓和 先生にお話を伺いました。



術後QOLの向上を目指し熱心に話し合いを行います



岡山赤十字病院

● 第一脳神経外科



部長
小野田 恵介 先生



副部長
神原 啓和 先生



〒700-8607 岡山市北区青江2丁目1番1号
TEL:086-222-8811 FAX:086-222-8841
www.okayama-med.jrc.or.jp/

成人頭蓋形成における生体吸収性プレート(LactoSorb®)の有用性

生体吸収性プレート(LactoSorb®)は、成長抑制やスクリュー移動の可能性が減少し、炎症反応や感染症の発生がきわめて低いことが示され、小児頭蓋形成において用いられ、有用性が示されている。本プレートは、6ヶ月で生体内に吸収されるといわれており、プレートの触知性を訴えることも少ないと考えられる。今回我々は成人例の頭蓋形成において LactoSorb® を応用し、良好な結果を得ることができたので報告する。

50歳代男性、くも膜下出血にて発症した左内頸動脈瘤に対し急性期に左前頭側頭開頭を施し、クリッピングを行った。術後脳腫脹が予想されたので外減圧術を追加しておいた。1ヶ月後、頭蓋形成術を施したが、この時1.5mm LactoSorb® 3枚を使用し骨弁を固定した。骨弁の固定は特に問題なく強固なものであった(Fig.1)。術後経過も感染等認めず、良好なfusionが確認された(Fig.2-1、Fig.2-2)。



Fig.2-1

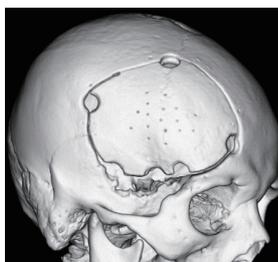


Fig.2-2

50歳代女性、左末破裂内頸動脈瘤に対し左前頭側頭開頭を施しクリッピングを行った。閉頭時、1.5mm LactoSorb® 3枚を用い頭蓋形成を行った(Fig.3)。骨弁の固定は問題なく、術後経過観察においても骨弁のfusionが確認された。

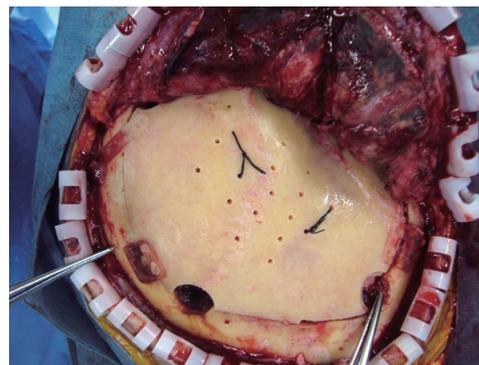


Fig.1

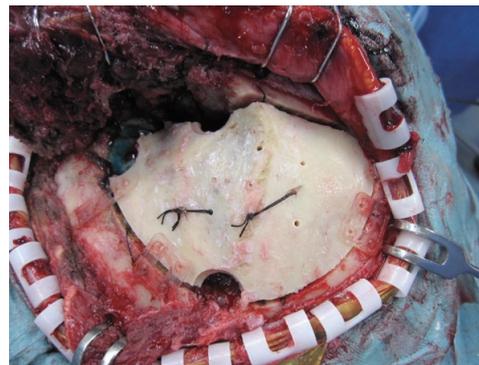


Fig.3

従来、当科においてはチタン製プレートを用い骨弁を固定し、強固な固定が得られ良好な結果を確認していたが、数ヶ月～数年後、外来診察においてインプラントの触知性の訴えを時に経験した。プレート厚はかなり薄いものとなり、改善されていたが、前額部のプレート触知、不快感を指摘され、局所麻酔下にてプレートを除去することもあった。本プレート(LactoSorb®)は柔軟であり、固定性の問題が危惧されたが、今回の症例においては十分な固定が得られ、特に問題を認めなかった。また触知性を訴えた例、感染を呈した例もなく、非常に有用であった。さらに今回は1.5mm厚のものを用いたが2.0mmのものもあり症例、開頭様式に応じた使い分けが可能になるものと思われた。

成人例における本プレート(LactoSorb®)の使用は患者さんの整容的満足度を上げ、術後QOLを向上させるものと思われる。引き続き本プレート(LactoSorb®)を成人例においても用い、継続したフォローアップを行ってゆきたいと考えている。

key words

1 確実にfusionされる

6ヶ月

2 感染なし

3 T-MRIも可能

4 整容的有用性

5 操作性に富む

6 プレートの形状も選択可

7 小児においては

一般的になっている

8 3枚使っている

チタンプレートなし